

介護・障がい者の事業所

人手不足で大変！

4割の事業所から回答

えんど久子県議は、7月の県議会一般質問や福祉保健生活環境委員会などで、障がい児福祉の人材確保について質問しました。その後、8月下旬に介護職員人材確保に関するアンケートを実施しました。

別府市内の高齢者・障害者の施設や訪問・就労継続支援・放課後等デイサービス・デイサービス・生活介護等の事業所98ヶ所に郵送し、39の事業所より回答をいただき、ありがとうございます。

77%が職員不足と回答

アンケートで、「介護職員数は足りていますか」の問いに「少々不足している」と「かなり不足している」との回答の合計は77.2%に上りました。また、多くの事業所が複数の

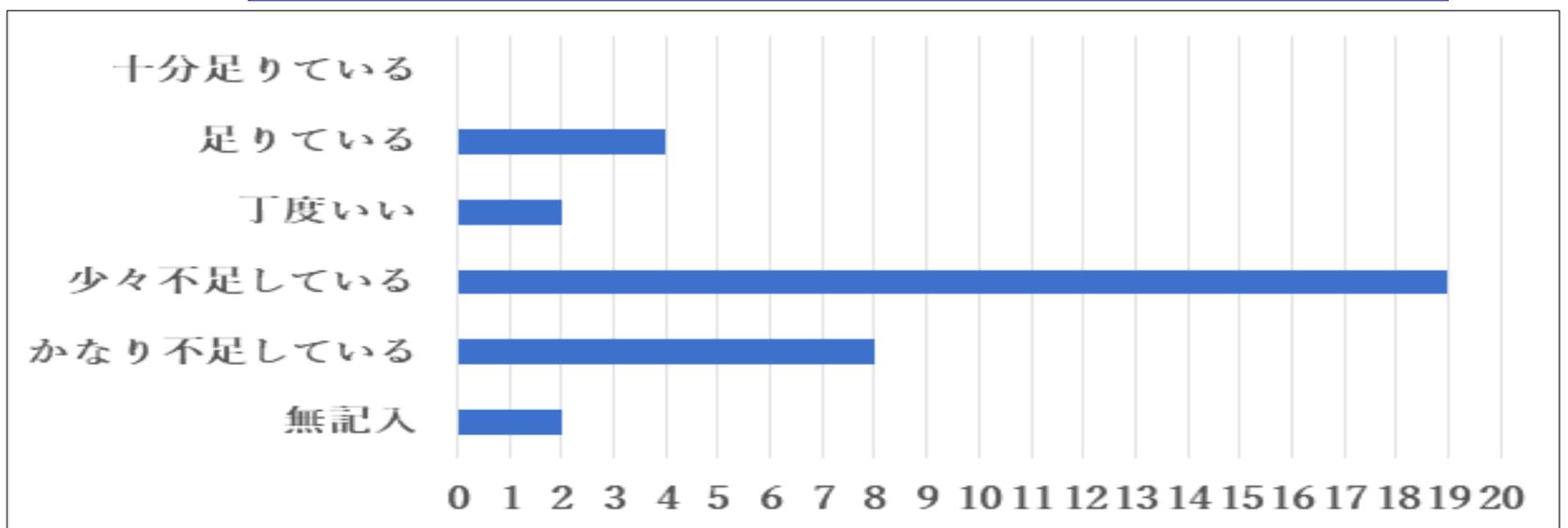
方法で求人募集しているにもかかわらず、3名以上不足しているとの回答が43.2%。なかなか面接に至らず、なかには1年以上1人も応募が無かったという事業所もあります。

きめ細かなサービスが難しい

コメント欄には「人手不足が支援員の質の低下を招いている」「登録ヘルパー、今年度で2名退職予定。募集を出してもほとんど応募が無い。重度障害者の支援を行っており、ヘルパーの育成にも苦難している」「介護業界では、大手がますます安定

し小企業等ではますます厳しくなる。利用者にとってきめ細かなサービス、寄り添うサービスが難しくなってきた。統廃合等が進んでいくのでは」「加算に加え他の対策を導入して欲しい」など、多くのご意見をいただきました。

各介護事業を行う上で介護職員数は足りていますか？の問いへの回答



# 6年後に大分県で介護職員1600人不足

## 大分県と意見交換会

人材確保についてのアンケート結果を受け、10月18日、障がい児・者の事業所を中心に関係者・当事者10名と大分県の障害福祉課長・高齢者福祉課長らとの意見交換会を行いました。

日本共産党の堤栄三県議とえんど久子県議、美馬きょうこ別府市議が同席しました。

## やりがいがあるが続けられない

参加者は、「配置基準がほとんど厳しくなったため、なかなか人材が見つからない。指導したくてもやめられては困るため、指導しづらく質が下がってしまう」「介護の仕事のやりがいや楽しさを伝え、イメージアップを図っていくことが必要」「きょうさねん

のアンケートでは、仕事にやりがいを感じている人が93.7%あるが、5年後もこの仕事を続けたいは50.5%、続けられないは13.3%、改善課題の1位は給与水準等の改善、との回答だ」などの声が上がりました。

## 全国で34万人介護人材不足

大分県は「厚生労働省によると、介護が必要な方に対して介護者が2025年には全国で約34万人、大分県内では1600人不足する」「いろいろな方が参入してきて規制が厳しくなっているが、まじめな人が不利益をこうむらないようにしなければならぬ」などと述べました。



県庁内で担当職員らと話し合う参加者。右から堤・美馬・えんどの各議員。手前は、県の職員。2019.10.18.大分県庁内

## 福祉の給料アップで経済活性化を

「福祉職場の給与水準の引き上げは大分県内の経済活性化になる。一緒に考え作っていききたい」「家族が介護しなければならなくなったら、経済にマイナスになる」などの意見に、県の課長は「思いはひとつだ」「ご意見や状況を肝に銘じて今後の施策に生かしていきたい」と話しました。

大分県議会HP→インターネット中継で一般質問の録画を見ることができます。ぜひご覧ください